

人傳取、次第行之、各取氷魚少許入在臺盤之器、次取汁沃上、

〔江家次第第六月〕忌火御飯

御菜四種、薄鰯、鰐、鰻、鰈和布御汁一杯、○申

神今食解ケサ齋事

次又供和布汁物以上居器

〔左經記〕寛仁元年十二月四日戊辰、大殿令任大政大臣給以午剋被行事者、○申居物皆如先例、二獻粉熟三獻飯汁鰯燒四獻又汁鰯燒唐合物五六巡、○下

〔枕草子十二〕いひにくきもの

新殿をたて、東のたいだちたる屋をつくるとてたくみどもゐなみて物くふを東おもてに出  
るて見れば、まづもてくるやをそきと、ゑる物とりてみんなのみて、○下

〔定家朝臣記〕康平五年四月廿二日己亥、今日有任大將師實事、○中三獻權納言羞汁物、○中物權紐等、○次

四獻左衛門督小魚羹、烏賊生鮑等、次五獻右衛門督鰯膾、鮎原作

〔空穗物語〕藏開上二中納言れいよりみ奉らぬ人もおはしまさずなどの給へば、だいばん所より

まいるおとな四人、わらは四人、おとなはあかいろのからぎぬ、あやのすりもあやかいねりのうちぎきたり、かたちきよげにらう／＼しき人、五位ばかりのむすめどもなり、わらはもあか色の五へがさねのうへのきぬ、ろうのうへのはかまあやかいねりのあこめ、みえがさねのはかまきたり、かみだけにあまり、すがたおかしげなり、かくて御しる物、御みきたび／＼まいりぬ、

〔兵範記〕仁安三年十二月十日丁酉、大嘗會悠紀所注進御物目錄事、○中銀器、○中御汁物器二口、

〔大草殿より相傳之聞書〕一すまし味噌に亥ろ水をあはせたるは、うはみゑると云也、すましみそ